

「くだもの王国 ふくしま」をPR!



福島市産果物のPR活動を、首都圏をはじめ全国で積極的に展開しています。市長を中心にミススピーチキャンペーンクルーが、トップセールスとして市場やスーパーマーケットなどで本市の農産物の安全性とおいさを届ける活動もその一つ。

また、東京・新宿駅と福島市を結ぶ高速バスの車体に「くだもの王国 ふくしま」のフルーツや豊かな自然などをアピールする広告を掲載した「ラッピングバス」を12月末まで毎日運行しています。



▲新宿駅→福島駅を毎日2往復運行している

東北大学と連携し、安全性を確保

「くだもの王国 ふくしま」を守るため、市では国際的に評価の高い放射線専門の研究所を擁する東北大学の全面的な支援をいただき、「東北大学福島第一原子力発電所事故対策本部福島市分室」を設置しました。専門職員が常駐し、農産物の放射能測定を実施。安全性の確保と風評被害払拭を図ります。



福島農家は負けない いつも胸の中にあるのは「希望」です!

参加しました。福島市のモモは、どこにいても好評でした」
「福島は、負けないよ。いつも胸の中にあるのは希望。来年こそ、来年こそって夢を語りながら寒風の中で剪定をし、手塩に掛けて育ててきた果物だからね。人のせいにはしないで、苦しいときこそ努力し続けることが大切」と話す吾妻さん。
全国から届く温かい応援メッセージに精いっぱい応えるべく、実りの秋、今日も畑に向かい果物たちと向き合います。

動けば道は開ける
福島市郊外を走るフルーツラインに立ち並ぶ観光果樹園は、食べ頃を迎えた果物を狩り取りできる人気のスポット。福島市観光農園協会の顧問を務める吾妻一夫さんの果樹園にも、果物狩りを楽しむ大勢のお客様が毎年全国各地から訪れます。



福島市観光農園協会 顧問 吾妻一夫さん

決意 和合 亮一

福島に風は吹く
福島に星は輝く
福島に木は芽吹く
福島に花は咲く
福島に生きる
福島を愛する
福島を誇る
福島を信ずる
福島を歩く
福島の名を呼ぶ
福島を誇りに思う
福島を子どもたちに手渡す
福島を抱きしめる
福島と共に涙を流す

福島に泣く
福島が泣く
福島で泣く
福島は私です
福島は家族です
福島は人生です
福島はあなたです
福島は父と母です
福島は子どもたちです
福島は青空です
福島は雲です

福島を守る
福島を取り戻す
福島を手のうちに
福島を生かす
福島を生かす
福島を生かす
福島を生かす
福島を生かす
福島を生かす
福島を生かす

わごう・りょういち 1968年福島生まれ。福島市在住。詩人。高校の国語教師。『After』（思潮社）で中野中也賞受賞。『地球温暖化詩集』（思潮社）で晩稲賞受賞。現代詩の旗手として、イベントやラジオなどで幅広く活躍。ツイッター（twitter/wago2828）。

市長からのメッセージ ～安全・安心な農産物をお届けしています～

皆様にお届けしている福島の農産物は、福島県が実施しているモニタリング調査のほか、福島市が東北大学の協力を得て実施している独自の放射性物質の調査により、国が定めた暫定規制値を下回っています。これからも福島の農産物をご利用いただき、一日も早い復興をめざしてがんばっている農家の皆さんを、どうか応援してください。

福島市長 瀬戸寿則

▲放射能を測定し安全が確認された福島市産農産物には、和合さんの詩と共に市長のメッセージを載せたチラシが添えられている



ところが今年の春は、原発事故の影響で来園者数が大幅に落ち込み苦しい思いをすることに。それでも下を向いてははも始まらないと、吾妻さんをはじめ観光農園協会の役員で首相官邸や農林水産省、消費者庁を訪れ風評被害対策を直訴しました。

また、観光農園協会の開園式には内閣府副大臣を招くなど、県内外において「くだもの王国」福島市のPR

Rに努められました。「動けば必ず道は開かれます」と吾妻さん。
「こんな時だからこそ応援させてほしい」と福島市に駆けつけてくださる方、「福島を支援したい。ぜひ、うちのイベントに果物を持ってきてくれ」と電話を下される方。福島市を応援して下さっている方がたくさんいることを本当に実感しました。
7月、8月と千葉や東京で開催されたさまざまな復興イベントにも幾度となく

▼福島の未来を担う若者が畑で収穫した「ナジ」を、一つ一つ真心とチラシを添えて箱詰めします

全国から届くメッセージに
元気をもらいながら